

平成27年9月

業界構造の把握と未収金の回収

みなさんは、自らの業界の「業界構造」を把握されていらっしゃるでしょうか。
「業界構造」のここでの意味は、「商流」あるいは「お金の流れ」と言い換えられます。
たとえば建設業界の場合、次のような業界構造がありますね。



①まず直接の取引先をチェック

もし皆さんの会社が孫請だった場合、下請に属する会社から代金をもらうことになります。施主や元請が大企業で支払能力に問題がなくても、自らの契約先は下請の会社になりますから、まずここで信用力をチェックすることが大切です。

②取引の流れ・当事者をチェック

それ以外に元請がどこの会社なのか、施主は誰なのかをしっかりと把握しておくことが大切です。万が一、下請の会社が支払いを遅らせた場合に、差押えをしたり債権者代位権（民法423条1項）を行使したりする場合に役立ちます。

与信管理の世界では、こうした取引全体の流れをチェックすることを「商流分析」と呼んでいます。

③考えられるリスクを洗い出しましょう

こうしたことを考えるのが初めてだという方は、取引の当事者と流れを書き、考えられるリスクを洗い出していきましょう。リスクとは例えば、当事者の一人が代金を支払えるか、クレームを言ってきやすい当事者ではないか等です。どこかでお金の流れが止まってしまいそうであれば、それに対して対応策を考え行動していく必要があります。